

## 前半ごみ多い、後半ごみ少ない 2022年度を振り返る



4月の春の嵐でごみが大量に漂着した藤沢市片瀬西浜

2022年度は、前半はごみが多く、後半はごみが少ないとくっきり分かれた一年になりました。

3日の春の嵐から始まった4月。21日、26日と大雨が続き、ごみを片づけても、すぐに新たなごみがやってくる状況でした。



砂浜に捨てられた炭

ゴールデンウィーク(GW)から秋までバーベキューごみが非常に多かったのは例年通りでしたが、冬に入ってもキャンプブームの影響もあってか、小規模な投棄が目立ったのが2022年の特徴でした。そのバーベキューごみの中でも、特に砂浜に捨てられる炭が自然に還らないこと

がメディアに取り上げられました。

海開き直前の6月29日には、猛毒のクラゲである「カツオノエボシ」が相模湾沿岸で大量に漂着。ニュースで大きく取り



海岸に漂着したカツオノエボシ

上げられ、対応に追われました。

7月に入っても、2週間に一回のペースで豪雨が続き、南西風によってダラダラとごみが漂着する状況が続きました。

3年ぶりの行動制限のない夏となり、多くの人々が海岸を訪れた結果、毎日、大量のごみが海岸に残され、早朝からごみを片付ける作業に追われました。

8月はお盆直前に、台風8号が襲来。ごみ

が多いお盆となりました。

9月は3つの台風が襲来。18日の14号ではごみが海岸上段に、24日の15号ではごみが海岸下段に、最後の28日の17号ではそれらのごみが波浪で拡散。上段→下段→拡散という、ごみの拡がりに非常に苦労しました。



ごみが一面に拡がる平塚市高浜台海岸

10月も後半になると、それまでのごみが多いモードが一転。雨がほとんど降らず、相模湾沿岸は非常にキレイな状態が3月まで続きました。

その一方で、東京湾の北向きの海岸には冬の北風によって、湾内のごみが多く吹き寄せられました。



## 黒潮の大蛇行と海岸ごみの変化



通常、黒潮は日本の南岸を沿うように西から東へと流れていますが、本州南岸沖に大きな冷水渦(冷水塊)が居座ることによって、そこを黒潮が迂回して流れる現象「黒潮の大蛇行」が発生します。

この黒潮の大蛇行自体は、それほど珍しい現象ではなく、1965年以降6回発生しています。発生しても、これまでは1～2年で終わっていましたが、2017年8月に発生した大蛇行は、今だ継続中で、現在5年を越え、過去最長になっています。

大蛇行によって、黒潮は紀伊半島沖で



は沿岸を離れますが、東海から関東にかけては逆にぐっと沿岸に近づきます。

これが海岸ごみに影響を与えています。具体的には、それまでほとんど見なかった海外からの漂流ごみが格段に増えました。南から風が強く吹くと、沖合にあった漂流ごみが海岸へと吹き寄せられてきます。

特に目立つのが漁具。プラかごやブイなどありますが、その中でも写真のような水色のウキが付いている漁網は非常に多いです。

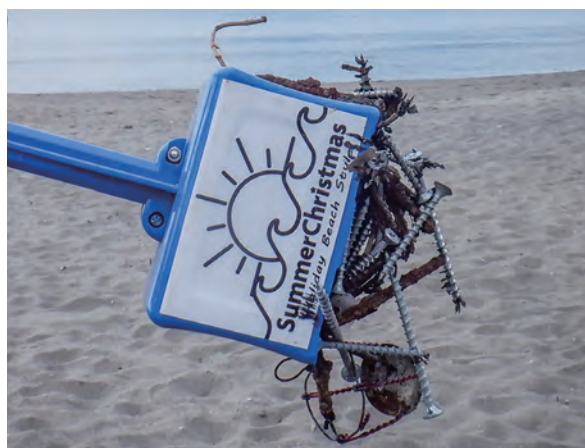


こうした海外からの漂流ごみは、神奈川県海岸ごみの全体で見れば、1割も満たないほどですが、漁網のように処理が厄介なものが多く、苦慮しています。

海ごみと一言で言っても、相模湾のように陸域から流出したごみがメインの地域もあれば、対馬のように海外からの漂流ごみがメインの場所もあります。

「海ごみ」と表す言葉は同じでも、中身が全く異なるので、きちんと分けて対応策を考える必要があります。

## 海の家のカギが海岸で大量に見つかります



冬から春にかけて南西風が強く吹いて海岸の表層の砂が飛ぶと、中から出てくるのが「クギ」です。

これは、夏の海の家解体時にでたモノ。錆びた古いクギだけでなく、新しいものもかなりありました。

クギは、ふかふかの砂の上に落ちると、すぐに砂の中に沈んでしまい、落としたら最後、その場で手で回収

することが困難です。

こうした海の家のカギは、海の家が建つ全ての海岸で見つかります。

美化財団では、パチンコ店が床に落ちたパチンコ玉を回収する際に使う「ハンドマグネット」という道具を使用していますが、毎年数千本単位で回収でき、なかなか減らないのが現状です。

## 財団直営部隊が活躍しました

2022年7月から2022年12月までの120日間、4人1班体制で財団直営部隊が海岸清掃に従事しました。

直営部隊は、ごみ量が多い場所や優先順位の高い海岸の清掃などを実施し、約148トンのごみを回収することができました。





## 2023 オンライン交流会を開催しました

3月4日に「オンライン交流会」を開催し、北は北海道、南は沖縄県からと全国から341名の参加がありました。

この交流会では、「課題をシェアし、具体的なアクションへ」をコンセプトに、先駆的に活動されているお二人にご登壇いただきました。

最初の一般社団法人JEAN 理事の小島あずささんによる「海で何が起きているのかー海洋ごみ問題の現状と課題について」と題した講演では、海ごみ問題の

これまでの経緯を振り返りながら、現在の対策や課題について解説していただきました。日本各地の海ごみの現場を実際に見て、NPO、企業、行政と様々なセクターとの関わりの中で海ごみ問題に取り組んできた小島さんの話はとても具体的で、今の課題が明確化されました。

次の一般社団法人Social Innovation Japan 代表理事/mymizu 共同創設者のルイスロビン敬さんによる「環境問題は「共創」の力で解決できる ～mymizuが

目指す持続可能な社会～」と題した講演では、海洋プラスチックごみの中でもペットボトルに着目し、その削減の具体的なアクションとしてアプリを活用した取り組みを紹介され、問題解決に向けて、イノベーションの活用だけでなく、多くの人を巻き込むバックストーリーの重要性も指摘されていました。

どちらの講演も、参加者から多くの質問が寄せられ、関連な質疑応答が展開されました。

## 福島県で講演しました

1月14日に「ふくしま海ごみネットワークシンポジウム」で講演してきました。

講演では、海ごみ対策の先進的なモデルケースとして美化財団の仕組みを紹介しました。

神奈川県では県と市町が連携し美化財団が行政域を越えて一体的に海岸を清掃していること、また、ボランティア支援の仕組みが確立しているので、ビーチクリーンボランティアの活動が非常に活発であることなどをお伝えしました。



## 桜美林大学インターンシップを受け入れました



3月13日から3月17日までの5日間、桜美林大学からインターンシップ生2名の受け入れを行いました。

学生2名は、財団職員とともに2トントラックに乗って、海岸パトロールに出かけ、ごみの漂着状況を確認したり、清掃したりして、現場仕事を体験しました。

また、ごみの調査も行い、実際に

データを取ることから海のごみ問題を学びました。

さらに、Z世代の環境イベントでパネルを設置し、来場者に美化財団の資料が入ったエコバッグを配布し、同世代の海ごみ問題をアピールしました。

そして、小学校と中学校への環境出前授業にも同行し、幅広い啓発活動も体験しました。